

二〇二〇年度（令和二年度）哲学科彙報

一 哲学科の活動（二〇二〇年四月～二〇二一年三月）

- ・第一部哲学科長に稲垣論教授、哲学専攻長に河本英夫教授が就任した。（四月）
- ・哲学科教育補助員（T A）に博士後期課程在学中の寅野遼氏、中村元紀氏、増田準人氏、博士前期課程在学中の石橋周都氏、伊藤俊介氏の五名、哲学科学生補助員（S A）に学部三年の沖原花音氏が就任した。（四月）
- ・哲学科四年生の卒業論文正式題目が決定した。（五月）
- ・哲学科三年生を対象とした卒論ガイダンスをオンライン上で実施した。（七月）
- ・寅野遼氏が哲学科教育補助員（T A）を退任し、藤坂大佑氏が新たに就任した。（十月）
- ・第三〇回白山哲学会を一〇月二四日（土）に開催した。六号館六三二〇教室での会場発表、及びウェブ会議システム Webex によるリモート発表の同時開催となった。
- ・哲学科三年生の卒業論文仮題目届を集計、担当教員を決定した。（十一月）
- ・令和二年度の哲学科卒業論文の提出。（二月）
- ・令和二年度の大学院哲学専攻修士論文の提出。（二月）
- ・卒業論文及び修士論文の口頭審査。修士論文は大学院で指導

を担当している教員（河本、稲垣、相楽、松浦、三重野）が審査に参加して行われた。成績判定が行われ、成績に応じて各賞を決定した。（二月）

二 教員の活動

稲垣 論（教授）

著 作 1. 「見えない世界を可視化する「哲学地図」

——「ポスト真実」時代を読み解く10章」（河本英夫・稲垣論編、学芸みらい社、二〇二一年三月刊行予定、「性のパフォーマンス（I）性の原則と変容、マジヨリテイ」を寄稿）

翻 訳 1. ベルンハルト・ヴァルデンフェルス「東洋と西洋との出会い」、『現象学 未来からの光芒

——新田義弘教授追悼論文集』（河本英夫編、学芸みらい社、二〇二一年三月刊行予定）

論 文 1. 「ありのままの生とインタビュー中心主義の帰趨——「ケアの現象学」の素朴さが映すもの」、『実存思想論集』三五巻、二〇二〇年、

五三―七四頁）

2. 「生きられた知」の論理とその外部——新田現象学が語らなかつたものへ向けて、「現象学 未来からの光芒——故・新田義弘教授追悼論文集」（河本英夫・武内大編、学芸み

らい社、二〇二一年三月刊行予定)

3. 「性のパフォーマンズ(2)——性の語り、共同幻想、同意の現象学」(『白山哲学』第五五号、二〇二一年三月刊行予定)

学会発表

1. 「性の現実性と変容——性はどのように語られてきたか?」(『国際哲学研究センター』『事象の世界地図に向けて』研究会、二〇二〇年八月八日、東洋大学)

2. 「22世紀の荒川修作+マドリン・ギンズ 天命反転する経験と身体」合評会(関西大学東西学術研究所 第二回研究例会「身体論研究班」、二〇二〇年九月四日、オンライン)

3. 坂井志織著「じびれている身体で生きる」合評会(二〇二〇年二月二七日、東京都立大学)

学会活動

日本現象学会、実存思想協会、日本哲学会、精神病理学会、病跡学会

教育活動

学部：「ロジカルシンキング入門」、「クリティカルシンキング入門」、「哲学演習A B」、「問題群演習A B」、「現代哲学演習A B」
大学院：「哲学演習」、「哲学特殊研究」、「哲学研究指導」

大学・学部管理運営活動

哲学科長、図書館委員

河本英夫(教授)

著作

1. 「見えない世界を可視化する」『哲学地図』——「ポスト真実」時代を読み解く10章(河本英夫・稲垣論編、学芸みらい社、二〇二一年三月刊行予定)

2. 「現象学 未来からの光芒——新田義弘教授追悼論文集」(河本英夫編、学芸みらい社、二〇二一年三月刊行予定)

論

文

1. 「可能性の生物学史」、「生物学史研究 No.100」(日本科学史学会生物学史分科会、二〇二〇年六月、六九—七二頁)

2. 「芸術はどのような運動か」、「最新精神医学」第二五巻、第五号、二〇二〇年五月、三九三—三九八頁)

3. 「Toward the 22nd-Century World Philosophy: Philosophy as a Research Program II」(『国際哲学研究』一〇号)

4. 「東洋的フラクタル——三浦梅園の構想」(『国際哲学研究』別冊一四号、二〇二一年三月)
5. 「システムの実験か——チャイナ・コードの地経学的生態学」(『エコ・フィロソフィ』

研究」一五号)

6. 「水の夢」(『エコ・フィロソフィ』研究
一五号)

7. 「公共性の生態学的モード——新型コロナウ
イルス第1波(2020年1月—5月)」、
『エコ・フィロソフィ』研究」一五号)

8. 「トワイライト・アイランド——佐渡周遊」、
『白山哲学』第五五号、二〇二一年三月刊行
予定)

概論 1. 「レオナルド・ダ・ヴィンチの手記」(「わた
しが選んだこの一冊」、河合塾、二〇二〇年
六月)

2. 「ローカル・ソング」(KAWAMOTO/HP)

学会活動 日本病跡学会(常任理事)

その他の活動

1. 東洋大学国際哲学研究センター長

2. 社団法人SSC理事

3. NPO 神経現象学リハビリテーション開発機
構代表理事

教育活動 学部：「現代哲学演習」、「哲学と科学」、「問
題群演習」、「論理学概論」

大学院：「現代哲学演習Ⅱ」、「哲学特殊研究

I」

大学・学部管理運営活動

大学院哲学専攻長

相築 勉(教授)

論 文 1. 「ハイデガーと和辻哲郎にとつてのカント」(東
洋大学国際哲学研究センター編『国際哲学研

究』部冊「日本哲学のパススペクティブ」、
二〇二一年三月予定)

講 演 1. 「ハイデガーと和辻哲郎にとつてのカント」
(白山哲学会、二〇二〇年一〇月二六日、東
洋大学)

実存思想協会(理事)、比較思想学会(理事・
評議員)

学会活動

評議員)

教育活動

学部：「西洋哲学史基礎概説AB」、「問題群
演習ⅡAB」、「現代思想演習ABⅠ」、「日本
哲学特講AB」

大学院：「比較哲学特論AB」、「哲学研究指
導ⅡAB」(博士前期課程)、「哲学特殊研究
ⅣAB」(博士後期課程)

大学・学部管理運営活動

社会貢献センター運営委員、文学部予算委員

中里 巧 (教授)

論 文

1. 「キリスト教正教と北方の霊性」(『北欧史研究』第三七号、バルトリスカンディナヴィア研究会、二〇二〇年二月二十五日刊行、四三—五二頁)

2. 「キリスト教における死者祈祷の教義」(『白山哲学』第五五号、二〇二二年三月刊行予定)
3. 「古代オリエントから連なる神の聖性——きよめにかんする諸資料——」(『東洋学研究』第五八号(東洋大学東洋学研究所紀要)、二〇二二年三月刊行予定)

学会発表

1. 「キリスト教悪魔祓いの世界観——」& 『ウォーレンの場合——』(日本宗教学会第七八回大会口頭発表、駒澤大学駒澤キャンパス オンライン開催、二〇二〇年九月一八—二〇日)

キエルケゴール協会理事(会長)・日本宗教学会(評議委員)、日本臨床死生学会(理事)、北欧精神史研究会(代表)

その他の活動

1. 「初期キリスト教の宗教儀礼と祈りの精神について」(東洋大学公開講座「エクステンション講座B キリスト教芸術の醍醐味」)

教育活動

- 礼・聖画・アイコン・聖歌」のうち) 一〇月一〇日、東洋大学社会貢献センター(エクステンション課)主催)
2. 令和元年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基盤研究(C))(一般)(個人)「北欧北方宗教学における葛藤の原理——復讐・無垢・共生の精神的ダイナミズム——」
- 学部：「応用倫理学AB」、「総合VA」、「哲学演習Ⅱ(独)」、「現代哲学特講Ⅰ」、「近世哲学演習Ⅱ」、「倫理学概論」
- 大学院：「倫理学特論」(博士前期課程)、「哲学特殊研究Ⅳ」(博士後期課程)
- 学外：「宗教学AB」(明治大学文学部)「思想領域研究特論Ⅲ」(明治大学大学院教養デザイン研究科)

大学・学部管理運営活動

学校法人東洋大学評議員・哲学科長・東洋学研究所運営委員・全学基盤教育小委員会委員・全学キャリア教育連絡会委員・哲学科入試委員・哲学科カリキュラム委員

永井 晋 (教授)

論 文 1. 「現代のユダヤ哲学」(『世界哲学史別巻』、筑

摩書房、二〇二〇年十二月、三一七—三二九頁)

2. 「未来哲学としての東洋哲学」(『未来哲学』

創刊号二〇二〇年後期、ぶねうま社、二〇二〇年十一月、二七—四四頁)

講 演 1. 「未来哲学としての東洋哲学」(未来哲学研究

所シンポジウム提題、二〇二〇年八月二四日)

2. Phénoménologie structurelle de Tizatsu

(INALCO) (フランス国立東洋語学文明学院)におけるzoom講演、二〇二一年三月予定)

学会活動 日本現象学会(委員)、比較思想学会、宗教

哲学会、日本シエリング協会

その他の活動

1. 未来哲学研究所研究員

教育活動 学部：「宗教学I A B 1」、「哲学概論A B」、「現代哲学演習II A B」、「哲学演習II (仏A B)」

大学院：「現代哲学演習I A B」

大学・学部管理運営活動

東洋大学グローバル化推進委員会委員長

三重野清顕 (教授)

翻 訳 1. 「ヘーゲル全集第十巻—「論理学」客観的論

理学・存在論(第一版、一八一—二二二)(久保陽一、飯泉佑介、岡崎秀二郎、三重野清顕共著(担当…一二六—一八一頁)、知泉書館、二〇二〇年二月)

2. 「カテゴリーとは何であるか、いかにして導

出されるのか—カテゴリー論としてのヘーゲル論理学」(『ヘーゲル哲学研究』第二十六号、

日本ヘーゲル学会、こぶし書房、二〇二〇年十二月、七三—八五頁)

2. 「自己認識と自己変容—人間の変容の可能性をめぐ

る試論」(『白山哲学』五五号、二〇二一年三月刊行予定)

3. 「ライブニッツとシエリング—「諸世界時代」

における同一性の理論をめぐって」(『国際哲学研究』第九号、二三一—三〇頁、二〇二〇年三月)

1. 「否定と(否定)をめぐって—石川求著「カ

ントと無限判断の世界」(二〇一八年、法政大学出版局)に寄せて」(『哲学誌』六二号、

東京都立大学哲学会、二〇二〇年三月)

日本ヘーゲル学会(理事、事務局)

書 評

学会活動

教育活動

学部：「西洋哲学史概説ⅡA B」、「西洋近代哲学演習Ⅰ」、「哲学演習Ⅱ（独）」、「ドイツ語ⅡA 1」、「ドイツ語ⅡA 4」

大学院：「近世哲学研究」「哲学研究指導Ⅳ」（博士前期課程）、「哲学特殊研究Ⅳ」、「哲学研究指導Ⅳ」（博士後期課程）

学外：「ギリシャ語」（お茶の水女子大学文教育学部）

大学・学部管理運営活動

文学部外国語委員会（外国語委員長）、教職センター運営委員会

松浦和也（准教授）

著 作 1. 「ロボットをソーシヤル化する——「人新世の人文学」10の論点」（編著）学芸みらい社

二〇二〇年一月一九日（全二五六頁）、（はじめに）、第一章「AIには何ができないか」（共著）、第二章「子供、発達、ロボット」（共著）、第六章「われわれは奴隷を作るのか」（単著）、「おわりに」を執筆

論 文 1. 「呪われた孤児としての現存せざるロボット」（『日本ロボット学会誌』三八巻九号、二〇二〇年十一月、九五—九七頁）

書 評

2. 「向社会行動と教育型ロボット」（共著）（『国際哲学研究』一〇号、二〇二二年三月刊行予定）

1. 「鋼鉄と電子の塔 いかにして科学技術を語り、科学技術とともに歩むか」電気学会倫理委員会・編（森北出版、二〇二〇年十二月五日、『週刊読書人』三月予定）

講 演

1. 「エートス・エコンター——人間・集団・人工物——」（RSTEX受託研究「自律機械と市民をつなぐ責任概念の策定」主催、課題設定による先導的人文学・社会科学推進事業「工学・脳科学をエビデンスとした社会的基盤概念と価値の創生」、東洋大学国際哲学研究センター共催 第一〇回R S I S研究会「人間と機械の協働を考える」於ウエビナー、二〇二〇年八月二日）

2. 「機械と世界」（アカデミーヒルズ・JST／RSTEX／HITE主催「混沌（カオス）を生きたる 第三回サイボーグと魂のつながり」イベント・日本・ギリシアの哲学から考える機械と身体」於ウエビナー、二〇二〇年一二月一三日）

3. 「二義的な、神々に愛されぬ者たちの幸せ」

(RISTEX)受託研究「人と情報テクノロジの共生のための人工知能の哲学20の構築」主催、RISTEX受託研究「自律機械と市民をなく責任概念の策定」、共催 ワークショップ「思考力とウェルビーイング」於ウエビナー、二〇二一年一月二三日)

学会活動

大学・学部管理運営活動

日本ロボット学会 ロボットの法及び倫理に関する委員会(幹事)
日本ロボット学会 人文社会科学論文査読小委員会(仮称)

その他の活動

1. 【受賞】日本ロボット学会優秀講演賞(二〇二〇年一〇月)

2. 【文献紹介】二〇二〇年度上半期アンケート

〔週刊読書人〕二〇二〇年七月二四日、三三四九号)

3. 【鼎談】「働(く)と」の再定義(仮)JST/RISTEX/HITE主催 於ウエビナー(二〇二一年一月二二日)

学部：「西洋哲学史概説Ⅰ／古代中世哲学史概説」、「古代哲学特殊講義」、「古代哲学演習」、「中世近世哲学演習／中世哲学演習」、「卒論指導」

高橋 厚(助教)

著 作 1.

1. 『世界哲学史四 中世Ⅲ バロックの哲学』(伊藤邦武・山内志朗・中島隆博・納富信留編、筑摩書房、二〇二〇年五月、第四章)「近世スロラ哲学」を寄稿)

2. "Against Averroes' Naturalism: The

Generation of Material Substances in Albert the Great's *De generatione et corruptione and Meteorologica IV*," in Richard Taylor and Katja Krause (eds.), *Albertus Magnus and His*

Arabic Sources (Turnhout: Brepols, forthcoming).

論文

1. 「偽アリストテレスの『宇宙論』、真作と偽書のはざまで」(『ユリイカ』、二〇二〇年十二月号)

2. 「神なる天体 中世における自然哲学」(『現代思想』、二〇二一年一月号)

3. 「魂の不死の哲学」[第二回]：アリストテレス「ニコマコス倫理学」(『白山哲学』第五五号、二〇二一年三月刊行予定)

4. 「中世哲学における抽象的認識：アヴェロエス、トマス・アキナス、ドゥンス・スコトゥス」(『抽象の理論をめぐる哲学史——古代から近代まで』(科研費研究成果報告書(研究代表者：池田真治(富山大学))、二〇二一年三月刊行予定)

学会発表

1. 「中世哲学における抽象的認識：アヴェロエス、トマス・アキナス、ドゥンス・スコトゥス」(日本哲学会共催・哲学オンラインセミナー、二〇二〇年八月二日、於Zoom)
2. 「神なる天体 中世における自然哲学」(京大中世哲学研究会第二六四回研究会、二〇二〇年十二月十九日、於Zoom)

学会活動

International Albertus Magnus Society
(Member of the Board)

その他の活動

「企画・運営・司会」[知の《アーカイヴ》の成立—写本研究を通して見える思想世界「第二回」](講演者：岩熊幸男(福井県立大学名誉教授))(二〇二一年一月二四日、哲学オンラインセミナー、於Zoom)

教育活動

学部：「哲学演習A B」、「宗教哲学A B」、「哲学思想史A B」、「Philosophy A B」
学外：「西洋思想史」(早稲田大学)、「哲学」(慶應義塾大学)

三 二〇二〇年度哲学科卒業論文題目一覧

理想的な国家とは

…現代の国制比較におけるプラトン理想国論の

有用性について

ケアの哲学：十分な看護を実践するために 佐藤 綾子

An Imaginary Land 尾形 亜太夢

トマンソンの新しい分類について

…既存の分類の問題点と新たな分類 土井 悠平

日本文学におけるエロス論：性愛の果てに救済はあるのか

竹内 結香

人工知能 (AI) について

感情の制御は可能か？

崇高について

この世界が仮想現実である証明

…夢と不可能性と攻略法

自由意志について

ルネサンスの自然魔術

…デッラ・ポルタの自然観と自然魔術のあり方

創作物における悪とはなにか

何故人はアートを求めるのか

感情について

笑い…「ドキュメンタル」における笑いの構築

幸福論…5人の幸福論から自身の幸福を検討—

死をもって生を制す

性格を知る…よりよく生きるために

バーチャルタレントは新時代の人間たりえるか

…バーチャルの定義と人間性

タイムトラベルと哲学

創作物による幸せ・大団円が好まれる理由とは？

…物語の創作においての原点「詩学」を読んで

中山 哲郎

福井 未菜実

藤城 菜穂子

駒井 海登

中島 潮

工藤 彩佳

浅井 圭輝

浅賀 利陽

石原 優仁

今泉 遼太郎

植島 絵梨

宇野女 夏生

海老澤 泉

川田 優河

黒岩 愛夏

『風の谷のナウシカ』にみる人間の正義について

…生きる目的を忘れた人間

自由に生きるということ

星の洗濯屋

夢について

糧にするADHD

自由意思と社会はどう向き合うべきか

…自由の実態について

動物倫理と食のあり方について

気配を構成し直す

…荒川修作+マドリン・ギンズ 建築する身体について

命の塔

学校における心理的視野狭窄とその対応策について

アジアにおける美とルッキズム

…女性の外見に付随する行動とその生活への影響

美と感性的認識について

人はなぜ生きてきて死ぬのか…我々が生きる意味とは何か

デイズニープリンセスの移り変わり

坂本 朝陽

佐藤 未波

佐藤 美歩

佐藤 超克

実井 優美子

関 祐輝

高橋 日出文

田所 佑理

谷川 亜樹和

濱田 茉莉亜

濱野 恭佑

廣瀬 杏奈

榎谷 日花里

松本 亜美

吉村 奈菜

Dさん

ヘーゲルの自由と理性

アンドレ・ブルトンから読み解くシュルレアリスム

現代のフェミニズムと女性の社会進出

日本と英語圏の文芸における美

可愛い、傷も全て

自己変革における他者

…主体性を涵養する「感情受容」の言説化に向け

自傷行為の異常性とは何か…自己破壊的行動を理解する

シャロック・ホームズの視野

他者…他人と双子

ジョンロールズにおける国際政治

…正義の二原理における3つの概念

デューイの教育哲学に関する研究

SNSにおける情報倫理に関する考察

…ユーザーが持つべき倫理感とは

ナンセンスの向こう側

仮面と自己

不条理の音楽・春雪

車 若 瑠 李 佳 瑞

野 本 美 咲 季

林 田 幸 大

宮 田 晋 次

遠 藤 里 紗 子

門 野 坂 翔 太

小 林 萌 子

小 松 想

佐 藤 海 里

佐 藤 慎 介

商 文

常 麻 佑 介

岡 崎 美 乃 み

小 嶋 優 樹

佐 々 木 仁 美

石 橋 宗 二 郎

近現代ロシア詩歌と歴史

回 転 木 馬 の 蹄

アドラー心理学

アイドルとファンの哲学…在り方とその行方は

人間の命の尊厳について…優生思想に対する反論

自己犠牲…私の行為は自己犠牲と言えるのだろうか

音楽制作を通じた自己表現

待ち続けている事

光をさがして

現代社会における発達障害の現状

プロバカンダ・アニメについて

フロイトの精神分析入門について…無意識が引き起こすもの

挿らぐ二重世界で故郷を見つけるといふこと

女の価値とは何か

暴力のメカニズム

リベラル優生学の展望

身から出た夜

八月、蟬、駐輪場

ニヒリズムの可能性

相 山 泰 輝

高 室 優 月

富 澤 圭 童

青 砥 優 衣

沢 山 彩

関 澤 祐

中 島 寛 太

長 山 朋 加

西 愛 由 美

福 田 桃 香

前 田 美 裕

小 野 美 咲

櫻 井 晃 文

鈴 木 瑞 季

高 山 優 衣 子

浜 田 秀 吾

柳 原 陽

大 滝 彩 音

久 保 拓 歩

言語獲得

鈴木詩織

…ヘーゲル弁証法と一般的な弁証法の関連・差異

「道徳教育」の存在意義と在り方

…道徳をどのように教授すべきか

吉田 創一

フッサールの現象学における間主観性

菊池 泰斗

レヴィナスにおける自己と他者の展開

宇田川 望

普通に食べたい…摂食障害の葛藤

小幡 真生

精神疾患とトラウマ

梶野 智華

「神」あるいは「超越的存在」

佐藤 要

動物の殺処分は許されるのか…急増する猫の殺処分を事例に

小宮山 理沙

多様化する「性」について
…これから私たちが考える・取り組むべきこと

須江 ちひろ

他者と自分…「より良いコミュニケーションとは何か」

小山 璃宮

四 二〇二〇年度修士論文題目一覧

渡辺 和真

本当の美しさ

野口 美莉愛

音楽的時間と体験における国民性への影響

宮本 香音

トマス・アクィナスにおける徳の結合について

石橋 周都

「赤」について…着色という観点からみるそのイメージ形成

山田 茜

死刑について

馬場 峻也

フルトヴェングラーの音楽解釈からみる、

これからのクラシック音楽解釈のゆくえ 若生 彩音

…死刑制度と死刑廃止を取り巻く諸問題
統握—統握内容図式の崩壊と感覚の構成について

伊藤 俊介

恋愛について…アドラー心理から見る「愛する」

志村 優佳

「確実性の問題」における「間違い」について

木村 真由子

「寛容」と「優しさ」…SNS時代の中で見えるもの

谷 亜由美

マクタガート研究

小高 郁哉

自然観について

…アイヌの異類婚姻譚に見る自然との向き合い方

中嶋 ひなた

五 二〇二〇年度開催 東洋大学白山哲学大会

歴史や文化、そして我々の周りに存在する弁証法の構図

日時 令和二年一〇月二四日(土) 一三時四五分から

会場 六三一〇教室（東洋大学白山キャンパス六号館三階）

形態 会場発表およびWeb会議システム「Webex」を利用した

リモート発表の同時開催

研究発表

司会…稲垣諭

伊藤俊介（東洋大学大学院博士前期課程）

「フッサール初期時間論における統握―統握内容図式の崩壊の意味について」

司会…河本英夫

藤坂大佑（東洋大学国際哲学研究センター研究支援者）

「プラグマティズムの二つの視点」

講演

司会…三重野清顕

相楽勉（東洋大学教授）

「ハイデガーと和辻哲郎にとつてのカント」

その他

校友会研究奨励賞に博士前期課程の伊藤俊介氏、学部四年生の小林萌子氏、文学部欲学奨励基金に学部四年生の石原優仁氏が選出された。